

第4回 伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会 議事要旨

- 日時 : 2023 (令和5年) 10月24日 (火) 14:00~16:00
- 場所 : 伊賀市役所4階 庁議室
- 出席者 : 久隆浩委員長、菊野善久副委員長、藪本弘子委員、福永真司委員、山本禎昭委員、中村忠明委員、松井隆昇委員、濱津享助委員、木宮康介委員、豊福裕二委員、杉山美佐委員、竹島弘美委員、濱崎久美委員、大森秀俊委員、平井俊圭委員、南徹雄委員
- 事務局 : 産業振興部 堀部長、堀川次長、中心市街地推進課 内田主幹、乾主任、藤山 伊賀市中心市街地活性化協議会 山崎事務局長、上野商工会議所 佐治事務局長

1. 開会

2. あいさつ

久隆浩委員長よりあいさつ

3. 報告事項

(1) ワークショップ実施報告

- ・ 参加したメンバーがいつもと同様の顔ぶれであった。今後、関わりのない方をどのように巻き込んでいくのか、ここが一番の課題だと考える。関心が薄い方に関心を持っていただくような仕掛けが重要であると考え。(委員)
- これから議論する基本計画の内容にも関わる話だと考える。基本計画の内容を知っていただき、一緒に取り組んでいただける市民の方を増やしていくことが重要になるのではないか。(委員長)

4. 協議事項

(1) 第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画中間案(骨子)について

- ・ 基本計画には、様々なことを書き込んでいくため、大きな柱やストーリー、シナリオが見えなくなってしまう。そこで、柱とストーリーをしっかりと共有するため、資料2-1を用意した。現段階では総花的に見えてしまうため、もう少しメリハリをつけることが必要であると考え。(委員長)
- ・ 8月29日に内閣府の中心市街地活性化評価・推進委員会から中間論点整理が公表された。中心市街地の役割をこれまでの「消費中心の場」から「生活を充実させる場」として捉え直すべき時代に来ているといった内容である。第3期計画は、第1期計画や第2期計画に比べると、生活を充実させる場に変えていくといった内容に変わってきているように思うが、この中間案に肉付けしていけば内閣府の認定は得ることができるのか。(委員)

- 現在、内閣府に事前に相談させていただき段取りを調整しており、相談結果に伴って、内容の肉付けや事業の取り込みについて考える予定である。ストーリーとしては、城下町伊賀上野の文化風土の部分を守って継承していくために、DMOの歴まち事業、旧上野市庁舎の事業等に加え、ソフト面でも取り組むことによって、居住人口、交流人口による賑わいを創出していくといった部分を内閣府に訴えていきたいと考えている。(事務局)
- 内閣府に相談した際にアドバイスや指摘も受けると思うため、認定結果を待つのではなく、事前に協議させていただきながら認定を得られるよう検討を進めていければと考える。また、居住に関して、長らく住み続けている方がいるからこそ、活性化のベースになる。ここに住み、働き、そして文化を支える方々が居てこそ、この中心市街地は未来永劫続いていく。内閣府もそこに軸足を置こうと言い出している。ここを支えるためには市内消費に市民ぐるみで取り組み、お金を回していく、というようなストーリーを発信する必要がある、ということかと考える。(委員長)
- ・ もう3期目の計画である。統計・調査結果や現状等の数字だけをいくら議論しても前に進まない。一例として空き家、空き地、空き店舗という3つの「空き」についても、伊賀市はどの事例を参考にし、どのようなスタイルでやるべきかといった段階の検討である。自治協や商店連合会、不動産、ハウスメーカー等の民間主導でチームを作って取り組むことで、新しい進展がみられるのではないかと考える。まちの勢いをつけるためには、1軒から始まる。民間の知恵も借りながら、それをバックアップすることが行政の役割だと考える。第3期計画では、この「空き」の問題のみならず、その他においても形にして進めていただきたい。(委員)
 - 彦根市も中心市街地活性化に熱心に取り組んできたが、キーパーソンであった商工会議所の当時の専門指導員の方は、「100の愚痴より10の提案、10の提案より1の実行」とおっしゃっていた。今回の計画もそうだが、提案というのは絵に描いた餅で終わる可能性があるため、それよりも1つでも2つでも実行しようということである。1つ1つ形にし、それをどう広げていくかという積み重ねが重要であるため、どこから着手するのか、誰がやるかといった部分を共有しておくことが必要ではないか。また、まずは、マルシェ等の着手しやすい部分から始めて、それをどう大きなもの、難しいものに繋げていくかというストーリーを描き、共有していくことがとても重要だと考える。(委員長)
- ・ 資料2に基本方針「子どもの代まで住み続けられる住みよいまちづくり」と記載されているが、内容から、「多世代が交流する活性化した中心市街地づくり」といったタイトルが良いと考える。(委員)
- ・ 第3回策定委員会議事要旨に記載している「鉄砲町では若者の住宅が増えており、高齢化率は20%程度まで落ちている」という項目は今回の中間案に反映されているのか。(委員)
 - まだ中間案には反映はしていない。ただ、地域の中の成功事例として、そのような

エリアがあることは、強みとして取り上げることは可能だと考える。(事務局)

- 鉄砲町のような成功事例を捉え、要因を分析することで、他地域への展開のあり方が見えてくる。どう動かしているのか、誰が動かしているのか等をきちんと押さえると、他のところに応用できるモデルにできるのではないかと。(委員長)
- ・ 図書館が旧上野市庁舎へと移り、空き店舗になるため、これをどう活用するのか。これは、にぎわい忍者回廊のにぎわいづくりの一環としても必要になってくると考える。また、丸之内地下道の整備についても、この機会に検討いただきたい。今回の資料に記載されているもののほとんどが第2期計画の延長であると思うため、違う角度から攻めるなどもっと自由な発想での意見等を載せていただきたい。(委員)
 - 市役所内でも検討していただき、事業化の目処も確認しながら、次回以降の議論に取り上げていただきたい。(委員長)
- ・ 伊賀鉄道において交通系 IC カードが 2024 年 3 月から使えるようになるため、公共交通の利便性を訴える事業や内容を入れていただきたい。バスやタクシー運転手を確保するのが難しいといった問題があるように、今後どのように中心市街地での公共交通機関を維持していくのか、島ヶ原のデマンド交通実証実験の結果も踏まえ、中心市街地に取り入れるか否かも含めて計画に取り上げていただきたい。(委員)
 - 交通系 IC カードは便利になるだけでなく、様々な付加価値がつけられる。例えば、公共交通機関や伊賀鉄道で中心市街地に来て買い物をすれば、そこで利用特典として割引が受けられるなど、ソフト事業にも繋げていけるので、上手な活用を検討していただきたい。(委員長)
- ・ 来年度の事業ではあるが子どもたちの集える場づくりを予定している。子ども向けデイサービス、学童保育に行けない子どもたちに対し、食事も含めてサービスを提供できるようにする。また、デイサービスセンターが併設であるため、お年寄りと子どもの接点を作り、地域の方々にボランティアをしていただくよう考えている。(委員)
- ・ 介護福祉業界では人手が足りない。しかし、例えば、空き家の家賃を安くすることで人に住んでいただき、人手を確保する事も考えられる。このような工夫はできるのではないかと。(委員)
- ・ 事業面において、第3期計画は、第2期計画の延長という印象がかなりある。内閣府の認定をとりに行くことを考えると、補助金をもらうことで何ができるか、重点的な軸はどこなのかをはっきり打ち出したほうが良いのではないかと。また、計画期間で全体がどう活性化していくのかを面的なイメージに落とし込んだものがあればよいと考える。(委員)
- ・ 「まちのプレイヤー」に関して、様々な主体が今回の事業の中に含まれているが、だれがエリアマネジメントしていくのか、その主体同士の情報交換や連携の仕組みをどうつくっていくのか。中心市街地活性化協議会よりももっと機動的に様々な主体が情報交換、連携できる仕組みと推進する主体をつくる必要があるのではないかと。個人的にはまちづくり会社を中心となり進めていただきたい。(委員)
 - 茨木市では商工会議所が、「まちなぎわいづくり連絡会」を主宰している。オフ

ィシヤルな会議ではなく、多様な主体（商店街、福祉団体、ローカルテレビ、ローカル紙、地元スポーツクラブ 等）が井戸端会議的に集まり、自由に意見交換できる場である。市も、商工労政課、市街地整備課、地域創造担当課、福祉担当課など様々な分野の方が参加している。オフィシヤルな会議も必要ではあるが、一方でざっくばらんな話ができ、そこから色々な繋がりが生まれていくような場所もできればよいと考える。（委員長）

- ・ 自家用車の駐車場や下水機能が郊外に比べて備わっていない点は、「弱み」として記載し、SWOT 分析にも反映していただきたい。（委員）
- ・ 子育て支援について、伊賀市全体で保育所、保育園・幼稚園は 30 ほどあるが、基本計画の計画区域内には幼稚園、保育所がそれぞれ 1 つずつしかない。若い世代に住んでもらうためにも、中心市街地への保育園・保育所の設立を考えていただきたい。それが難しければ、送迎保育ステーションのような送迎の仕組みの導入についても考えていただきたい。中心市街地に保育所や送迎保育ステーション等があれば、親御さんが朝夕に中心市街地に来訪することになり、活性化にも繋がるのではないかと。（委員）
 - 例えば、駅前に送迎ステーションをつくり、そこまでは車で来て駐車場に止めていただき、そこから伊賀鉄道で通勤するといった組み合わせも考えられるのではないかと。中心市街地以外で働かれる方でも送迎保育ステーションをうまく使いながら一旦中心市街地に来訪していただくような、そのような仕掛けもできないかと思った。（委員長）
- ・ 商工会として、5 つの地域の地域活性化委員会で、10 年間取組を続けており、今度はマルシェをやらせていただく。先程、「10 の提案より 1 の実行」というお言葉があったが、1 つの実行でも続けていくことが大事だと考えている。また、地元企業の地域活動が周囲に波及して、別の場所から「何か私達も地域活動をやろう」という話が聞かれるようになっていく。1 つ動くことで周りから少しずつ動いていくため、楽しみになってきている。やはり動き出すことが重要であると考えている。（委員）
 - 枚方市では、子ども食堂応援団ができています。食品メーカーで廃棄せざるを得ないような大量のストックが出た際に、倉庫業者と運送業者の協力によって対応するなどの連携が進んでいる。このように事業者はスキルとノウハウを所持しているため、市民活動とタイアップすると様々な展開ができると考えている。社会貢献を事業者の方と一緒に考えていくことで、様々な可能性が広がっていくのではないかと。誰かが動き始めると、他者も引っ張られるため、そこをうまく横展開できるような工夫、情報共有等も行っていたいただきたい。（委員長）
- ・ 私どもの町で荒れていた空き家があったため、空き家対策室に相談したところ、持ち主を特定し、補助金の説明を行ったうえで、伊賀市内のハウスメーカーと協力して、宅地を作っていくことになった。その隣の空き家の持ち主にも働きかけたところ、一緒に解体していくことになった。大規模なところだけではなく、小規模なところでも 1 軒ずつ老朽化した住宅について市に相談し、補助金等のアドバイスを得ながら対策を進めている事例が出

てきている。(委員)

→ うまくいっている事例があるということは、中心市街地にはまだまだニーズがあるということ。動けば何とかなるため、そこまでのハードルをどう埋めていくかという戦略等が必要なのではないか。うまくいったモデルをマニュアル化し、共有できるようにしていただきたい。(委員長)

- ・ 資料2において、3章は課題の部分が大半であるため、課題部分と基本的な方針を切り分ける目次構成にすると、内容が分かりやすくなると思う。また、P29は大きな話、P30は具体的な話と、内容があまりにもかけ離れているため、P.29の後に、資料2-1のようなページを差し込み、新たに章を起こすことで、基本的な方針がしっかりと書き込めると思うため、対応をお願いしたい。(委員長)
- ・ 4章の「主な事業」において、「伊賀市合併処理浄化槽設置整備事業」が最初に記載されているが、この順番であると、活性化するためには最初に浄化槽を作るという見方になってしまう。重要な順、効果のある順に事業の順を考え、わかりやすいよう入れ替えていただきたい。(委員長)
- ・ 事業やメニューのターゲットを絞り込むことで、より具体的なイメージが見えてくると考える。例えば、外国人観光客でも、様々なタイプがいる。欧米の方は特別なものを期待しておらず、私達の普段の生活が彼らにとっての観光資源であるため、上野天神祭りなどの地域の祭りを楽しんだりしている。一方で、アジアの方は日本人と同様に特別なものを見に行こうとする傾向が高い。さらに、アジアの中でも一般の方と富裕層では全く違う動きを取り、富裕層は欧米系の方に近い。誰をターゲットにし、何を提供するのかといった部分をしっかりと確認し、事業の内容を充実させていただきたい。伊賀上野は、既に日本の文化の1つの特徴である忍者のみで観光客を呼び込んでいるため、そこをどう横展開するか、忍者体験に来た観光客の滞在期間をどう伸ばすかについても一緒に知恵を絞って検討していきたい。これらの観点は、居住施策においても同様で、どのような移住者をターゲットにするかによって呼び込み方が変化するため、1つのメニューでざっくりと括らないほうが良いと考える。(委員長)

(2) その他

- ・ 図書館の跡地活用の議論はこのテーブルで行うべきか。(委員)
 - 計画に書き込むかは事業の熟度によるかと思う。熟度によっては、今後の活用方策を検討するという事を書くことになるかもしれない。(委員長)
 - 資料2のP30の「主な事業」について、今後どのように事業を掲載していくかは今後の課題である。委員会終了後、改めて策定委員の方から意見を収集し、中間案に反映していきたいと考えている。(事務局)
 - 旧ふれあいプラザの活用についても動き始めている。今後活用に関する議論が始まると思うが、忘れずに計画に書いておくことが重要だと考える。(委員長)

5. 今後の予定について

- ・ 次回 12月12日火曜日 16:00～

以上